

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103466
法人名	有限会社 甲南メディカル
事業所名	グループホーム すずらんハイツ
訪問調査日	平成20年6月17日
評価確定日	平成20年7月18日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670103466
法人名	有限会社 甲南メディカル
事業所名	グループホーム すずらんハイツ
所在地	鹿児島市中央町16番19号 (電 話) 099-812-8633
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年6月17日

【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年12月17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	6 人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	5 階建ての	2 階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	有 (円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	有 (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	月額	30,000 円		

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	79 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	肥後クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは鹿児島中央駅に近く、交通の便に恵まれた場所にあり、ご家族等の訪問にも便利である。周囲には商業施設が立ち並び、買い物等の外出に適している。ホーム内は、外の雰囲気とは違い、ゆっくりと穏やかな時間が流れている。散歩の途中で近隣の方々と挨拶を交わし、おすそ分けをするなど、地域との関係も良好である。関連施設に医療機関や特別養護老人ホーム、ケアハウスなどがあり、事業所間で研修会や情報交換を行い、サービスの質向上に向けて日々取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化や終末期に向けた方針の共有については、事業所としての方針を明確にし、本人およびご家族に対して説明を行っている。看取りに関する指針やご家族の同意書を作成し、状況に応じて話し合いを進める体制が整っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者および職員は自己評価を気づきの機会ととらえ、スタッフミーティングですべての項目について話し合い全員で評価を行っている。外部評価の結果は家族会でも報告し、指摘があった項目については早急に対応して改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域住民や市の担当者など様々な立場の方が参加して、2ヶ月に1回のペースで開催されている。会議で話し合われたことは、日々のケアや課題の改善に向けた取り組みに反映されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議や家族会および面会時に声かけしており、ご家族が意見を表しやすいように努めている。出された意見は職員間で話し合い、日々のケアに反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域的に老人会の活動が少なく参加する機会が減ってきているが、清掃活動やバザーなど、地域の活動には積極的に参加している。今後は、地域のお寺の行事などにも参加していく予定で準備を進めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合い、理念をつくりあげている。その中には、地域住民と利用者が、良好な関係を築きながら生活できるようにとの思いが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時の唱和やホーム内への掲示を行い、理念の共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域的に老人会の活動が少なく参加する機会が減ってきているが、清掃活動やバザーなど、地域の活動には積極的に参加している。今後は、地域のお寺の行事などにも参加していく予定で準備を進めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者および職員は自己評価を気づきの機会ととらえ、スタッフミーティングですべての項目について話し合い全員で評価を行っている。外部評価の結果は家族会でも報告し、指摘があった項目については早急に対応して改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民や市の担当者など様々な立場の方が参加して、2ヶ月に1回のペースで開催されている。会議で話し合われたことは、日々のケアや課題の改善に向けた取り組みに反映されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者で行き来する関係を築き、相談、助言をもらいながら、サービスの質向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個人別の写真を掲載した「すずらんハイツ通信」を毎月発行しており、利用者の暮らしぶりや行事、職員の異動の報告等を行っている。金銭管理については、金銭出納帳をコピーして、毎月ご家族に確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会および面会時に声かけしており、ご家族が意見を表しやすいように努めている。出された意見は職員間で話し合い、日々のケアに反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が利用者にも与える影響を理解し、法人内での異動はやむを得ない場合を除いて行わないようにしている。離職や異動がある場合には、利用者およびご家族に紹介して、新しい職員が早く受け入れられるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づいて毎月職員研修を行い、情報の共有と介護サービスの質向上に努めている。また、経験に配慮しながら、外部研修にも積極的に参加を進めている。		現行の研修体制をさらに充実させるために、各職員を立場や経験、習熟度に応じて段階的に育成するための計画を立てていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内のグループホームをはじめ、他のグループホームの職員と情報交換や相互訪問を行い、サービスの質向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は無理な利用開始に伴う弊害を理解しており、ご家族の見学だけでサービス利用を決めることはせず、必ず本人にも見学をしていただき、納得した上で利用を開始していただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理やサツマイモの手入れなど、利用者の得意分野を引き出し、職員が学ぶ機会をつくっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに問いかけ、その人の思いを把握するように努めている。またご家族にも生活歴などを聞き、本人の思いや希望により近づけるように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族や本人、主治医からの意見や希望を確認し、全職員が参加する担当者会議で話し合いを行い、それらの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回、介護計画の見直しを行っているが、状態悪化時など変化があった場合は、期間終了前であっても現状に即した介護計画に変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や買い物の支援、通院の付き添いなど状況や利用者の希望に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族より希望の主治医を確認し、受診、往診の支援を行い、適切な医療が受けられるようしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に対してのあり方について、事業所としての方針を定めている。家族交流会でご家族に説明を行い、個別に話し合いの機会を持つようにしている。今後も必要に応じて話し合い、本人およびご家族の希望を確認して、職員間で情報を共有していく体制である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような声かけや誘導を、行わないように心がけている。個人情報についての研修を開催し、職員の意識向上に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課は決められているが、それに縛られることなく、利用者の希望を聞き入れて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力量に応じて、食事の準備や後片付けにできる範囲で参加している。職員は、市主催のグループホーム向け調理研修に参加してスキルアップを図っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるように準備を行い、一人ひとりの希望にそって支援している。毎日個人別に入浴の有無をチェックしており、少なくとも一日おきには入浴していたくように声かけしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なことや好きだったことを、本人およびご家族からの情報で把握しており、それらを生活の中に取り入れて、楽しみながら暮らすことができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を確認して近くの商店街に出かけ、物を買う楽しみや人々が行き交う雰囲気を感じられるように、外出の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵はかけず、玄関から2階の食堂、3階の居室をつなぐエレベーターも、利用者が自由に操作して行き来している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っており、職員は共通した避難時の対応を把握している。近隣の方々にも日頃から声をかけ、協力が得られるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れた食事を提供し、毎日食事量をチェックしている。水分は1日の目標の量を設定して摂取を促している。水分摂取量が減少した利用者にはチェックをして水分の摂取を促しているが、日常的なチェックは今のところ行われていない。		早出や遅出など職員の入れ替わりがある中で、情報伝達を確実にするための方策を検討して、職員間で情報の共有を図っていただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月玄関に季節感のある人形を飾り、訪問者の目を楽しませている。食堂には季節の花が飾られ、利用者はテーブルを囲み居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具が持ち込まれ、利用者が使いやすいようにレイアウトされており、過ごしやすいつ空間となっている。		